

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
国語	言語文化	3	習熟度別	共通	1

教科書（発行所）	精選言語文化（東京書籍）
教科書以外の教材	1 三訂版 完全傍訳やさしくくわしい古典文法（尚文出版） 2 必携新明説漢文（尚文出版）

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。		
-----	---	--	--

学期	学習事項	学習内容	考查等
学習計画	1 学期 【古文】古文入門「宇治拾遺物語」（児のそら寝・絵伝師良秀） ・言語活動：声に出して古文を読む 【漢文】漢文入門 訓読の基本 故事成語（推敲） ・言語活動：漢和辞典を用いて、漢字一字に込められた意味を調べる 【近現代編】「羅生門」	・文語のきまりを理解し、古典に親しむ。 ・歴史的仮名遣いの読み方を理解し、古文を音読する。 ・説話の面白さや、昔の人の恋のあり方を理解し、その世界に親しむ。 ・文語助動詞の種類と用法を理解する。 ・訓読のきまりを理解し、文章の内容を的確に読み取る。 ・格言や短い漢文を読み、漢文に親しむ。 ・故事成語の由来や意味と、現代の言葉とのつながりを考える。 ・近代日本文学への入門的な短編を通して、内容や展開を的確に捉えることを学ぶ。	課題考查 中間考查 期末考查
	2 学期 【古文】「徒然草」（丹波に出雲といふ所あり） 「枕草子」（ありがたきもの） 「伊勢物語」（芥川） 【漢文】 寓話（借虎威） 絶句と律詩 【現代文】「雨漏りの音」 ・言語活動：比喩から作者が表現したかったことを読み取り、話し合う	・『徒然草』に表れた作者のものの見方、感じ方を捉え、また、物語に描かれた人物の心情などを読み取る。 ・日記文学の特徴や成立の背景を理解する。 ・史伝の背景を理解し、人物の心情・考え方や生き方を学び、自己の生き方の糧にする。 ・漢詩のきまりと表現の特色について学び、漢詩の世界に親しむ。 ・現代の小説を読み、作品に表れているものの見方・感じ方・考え方をつかむ。 ・古代から現代にまで続く和歌・短歌の形式を理解し、その代表的作品を読み味わう。	課題考查 中間考查 期末考查
	3 学期 【古文】「平家物語」（木曾の最期） ・言語活動：人物の心情を想像して「木曾の最期」を脚本化する 【漢文】 史話（晏子之御） 思想「論語」 【現代文】「小景異情」・「一つのメルヘン」・「あいだ」	・音読を通して『平家物語』特有の表現を味わい、人物の心情を深く読み取る。 ・俳諧の修辞や古典を踏まえた表現などを読み味わう。 ・『論語』を学ぶことで、自己のものの見方・考え方を豊かにする。 ・近現代の詩を、表現上の特色や工夫に留意しながら読み味わう。	課題考查 学年末考查

授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等	<ol style="list-style-type: none"> 提出物・宿題の期限を必ず守ろう。 授業中は必ず辞書を持参し、こまめに辞書を引く習慣をつけ、語彙力をつけよう。 国語に苦手意識を持っていても、どれだけ努力をしたかが大切である。主体的・積極的に学習へ取り組もう。 ノートやプリントは板書をそのまま写すだけで終わらせず、説明を集中して聞き、メモを取ったり、アンダーラインを引いたりする習慣をつける。ノートが自分の参考書になるので、後から復習で活用できるように丁寧にまとめる。 1年間の学習を通して言語感覚を磨き、思考力や自ら進んで表現する姿勢を養おう。
----------------------	--

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	「書くこと」「読むこと」において論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	定期考查・課題確認テスト（小テスト）・課題レポート・日々題・週課題、授業に臨む姿勢や意欲及び自己評価を総合的に評価します。 いわゆるペーパーテストのみの点数がすべてではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価します。よって、テスト以外の普段の取り組みも評価の対象になります。知識・技能にもとづいた思考力・判断力・表現力も問うので、普段から、本質的な力を磨くようにしてください。		